

大塚明子（ディレクター・インタビュアー・ライター・ナレーター）

1. 実施場所・日時

- (1) 高雄会場：2019年1月27日（日）13：30～17：00
実践大学推広教育部高雄中心1202教室（高雄市苓雅区苓南路2号）
- (2) 台南会場：2019年1月28日（月）13：30～17：00
成功大学外語中心26104視聴教室（台南市東区大学路1号 光復校区修齊大樓）

2. テーマ

「しっかり伝わる声の出し方・話し方」

3. 概要紹介（事前の講師からのメッセージ）

- (1) 高雄会場：日本語教師および台湾の日本語教育関係者対象

話し方が適切でないと、内容がどんなに素晴らしくても、相手に真意が伝わらないことがあります。日本語教育の場において教師は教室で話す、お手本として教科書を読むなど、さまざまな発話機会があります。そのとき、どのくらいの大きさ、早さ、高さの声で、どのくらいのスピードで話せば、伝わりやすいのでしょうか。自分にとっての一番良い声を出す方法や、伝わる話し方について、一緒に声を出して練習しながら探していきます。また、朗読、ナレーション、アナウンス、アニメのアフレコ原稿の読み方の違いを紹介します。教科書を読む際や学生の指導（音声、面接、スピーチコンテストなど）に役立てただけのような内容をお話ししたいと思います。

- (2) 台南会場：日本語学習者対象

話し方が適切でないと、内容がどんなに素晴らしくても、相手に真意が伝わらないことがあります。私たちは、授業で発表をする、教科書を読む、イベントで大勢の前で話すなど、人前で話すさまざまな機会があります。そのとき、どのくらいの大きさ、早さ、高さの声で、どのくらいのスピードで話せば、伝わりやすいのでしょうか。自分にとっての一番良い声を出す方法や、伝わる話し方について、一緒に声を出して練習しながら探していきます。また、朗読、ナレーション、アナウンス、アニメのアフレコ原稿の読み方の違いを紹介します。声や話し方に自信がもてるようになると、語学の勉強が楽しくなるだけでなく、コミュニケーションがもっと自由になります。

4. 具体的な内容

- (1) 高雄会場：日本語教師および台湾の日本語教育関係者対象

①しっかり伝わる声とはどんな声か、またその出し方について、実際に全員で体を動

かし、声を出し、体感して理解を深めました。

②しっかり伝わる話し方とはどんな話し方か、そのような話し方をするためにはどのような練習をしたらいいのか、声を出して一緒に練習しました。あいうえお練習や滑舌訓練、準備運動、話速、ポーズの取り方など、実際に各自録音したり、全員で「あいうえお」や「早口言葉」の原稿を読むなどを行ったりして、しっかり伝わる話し方をするにはどうしたらいいのかを実感しました。

③場に応じた話し方を学ぶため、アナウンサー、朗読、ナレーション、アニメのアフレコを例に、それぞれの発声・話し方の特徴を学ぶとともに、それぞれのプロの練習方法を確認しました。それぞれのプロの実際を youtube で見て、自分たちでも体感しました。朗読については、グループで練習を行い、講師らが回って一人ひとりの読み方の確認も行いました。

④日常会話や面接・スピーチ・プレゼンテーションなどで話すときにはどのようにしたらよいか、理解を深めました。

(2) 台南会場：日本語学習者対象

①、②は高雄会場と同様。

③高雄会場と同様に、場に応じた話し方を学ぶため、アナウンサー、朗読、ナレーション、アニメのアフレコを例に、それぞれの発声・話し方の特徴を学ぶとともに、それぞれのプロの練習方法を確認しました。それぞれのプロの実際を youtube で見て、自分たちでも体感しました。それぞれの読み方について、やってみたい人が代表で皆の前で読むことも行いました。

④高雄会場と同様

5. 所感

日本語理解について、文法や読み方がわかるだけでなく、さまざまなシチュエーションで、その場にふさわしい話し方を習得したいという熱意を感じました。日本においても、母語であるにも関わらず「声」や「話し方」についての学びの意欲は高く、コミュニケーションにおける音声の重要性の認知が深まり、関心が高まっていることを実感しました。

響く明るい声を出すためには、姿勢や呼吸法も大切です。容易には実感することは難しいのですが、参加者の表情を見ていると体感することができた様子でした。

早口言葉は、日本に留学している中国人は母国の日本語学習で体験したことがあると聞いていましたが、台湾ではほとんどないようでした。語感を楽しみながら発音を習得するために練習していただけたらと思いました。

職業による言語行為の違いは日本人にとっても興味深いものですが、両会場とも、特にアニメへの関心の高さを感じました。日本語に興味を持つきっかけや日本語を趣味で楽しむにはよいのですが、普通に通じる日本語としてはアニメは教材になりにくいので、会場では実際には行いませんでした。しかし、朗読で「蜘蛛の糸」(高雄会場)、「ドラえもん」

(台南会場) を取り上げ、その会話部分で「なりきって演じる」ことを実感できたと思うので、楽しみながら日本語を学習し、円滑で活発なコミュニケーションに役立てることは他の教材でも可能であることは伝わったのではと思います。

声が出たり、相手に言いたいことがすぐに伝わったりすると、話すことが好きになり語学の勉強が楽しくなります。発声や滑舌、早口言葉の練習原稿、話速を測るための300字の原稿、アナウンサー原稿、朗読原稿、ナレーション原稿、アフレコ原稿など、なるべく楽しく読める教材を多めに資料として添付したので、各自の練習や授業で活用していただけたらと思います。